

製品名: ER α ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab10621**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	66kDa

抗原情報

遺伝子名	ESR1
別名	ESR1; ESR; NR3A1; Estrogen receptor; ER; ER-alpha; Estradiol receptor; Nuclear receptor subfamily 3 group A member 1
遺伝子 ID	2099.0
SwissProt ID	P03372
免疫原	抗血清はヒトエストロゲン受容体 α 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 501-550

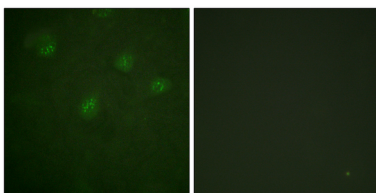
背景

この遺伝子は、ホルモン結合、DNA結合、転写活性化に重要な複数のドメインからなるリガンド活性化転写因子であるエストロゲン受容体をコードしています。このタンパク質は核内に局在し、エストロゲン受容体2とホモ二量体またはヘテロ二量体を形成します。エストロゲンとその受容体は、性の発達と生殖機能に必須であるだけでなく、骨などの他の組織でも役割を果たしています。エストロゲン受容体は、乳がん、子宮内膜がん、骨粗鬆症などの病理学的プロセスにも関与しています。選択的プロモーターの使用と選択的スプライシングにより、数十の転写バリエーションが生じますが、これらのバリエーションの多くの全長は未だ解明されていません。[RefSeq提供、2014年3月],domain:3つのドメイン(調節N末端ドメイン、DNA結合ドメイン、C末端ステロイド結合ドメイン)から構成されます。function:核ホルモン受容体。ステロイドホルモンとその受容体は、真核生物の遺伝子発現の調節に関与し、標的組織における細胞増殖および分化に影響を与える。、オンライン情報:エストロゲン受容体のエントリー、多型:ESR1の遺伝子変異は骨密度(BMD)と相関している。BMDの低下は骨粗鬆症性骨折の危険因子である。骨粗鬆症は、骨密度の低下、骨微細構造の破壊、骨中の非コラーゲン性タンパク質の量と種類の変化を特徴とする。骨粗鬆症の骨は骨折リスクが高い。、PTM:グリコシル化; N-アセチルグルコサミンを含み、おそらくO結合型である。、PTM:サイクリンA/CDK2によってリン酸化される。リン酸化はおそらく転写活性を高める。、類似性:核ホルモン受容体ファミリーに属します。、類似性:核ホルモン受容体ファミリーに属します。NR3サブファミリー。、類似性:核内受容体DNA結合ドメインを1つ含みます。、サブユニット:SLC30A9と相互作用します(類似性による)。ホモ二量体としてDNAに結合します。ESR2とヘテロ二量体を形成できます。NCOA3、NCOA5、NCOA6コアクチベーターと相互作用し、標的遺伝子の転写を大幅に増加させます。リガンド誘導性様式でNCOA7と相互作用します。PHB2、PELP1、UBE1Cと相互作用します。AKAP13と相互作用します。CUEDC2と相互作用します。KDM5Aと相互作用します。SMARD1と相互作用します。HEXIM1およびMAP1Sと相互作用します。PBXIP1と相互作用します。MUC1との相互作用は、7β-エストラジオール(E2)によって刺激され、ERS1を介した転写を強化します。DNTTIP2、FAM120B、UIMC1と相互作用する。TXNRD1のアイソフォーム4と相互作用する。MLL2と相互作用する。ATAD2と相互作用し、この相互作用はエストラジオールによって増強される。

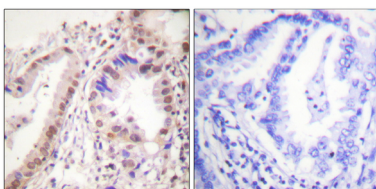
研究分野

シグナル伝達

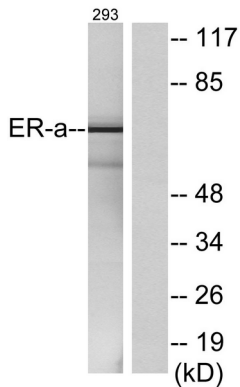
画像データ



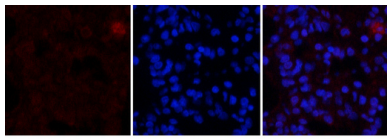
エストロゲン受容体α抗体を用いたA549細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



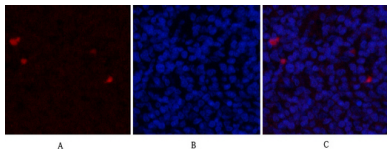
エストロゲン受容体α抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



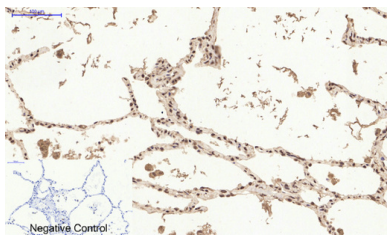
エストロゲン受容体α抗体を用いた293細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



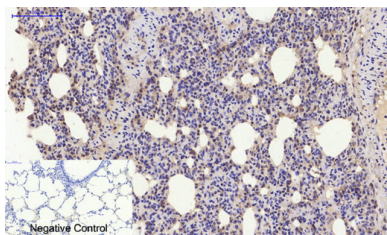
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, ERαポリクローナル抗体(赤)を1:200に希釈(4°C、一晩)。2, Cy3標識二次抗体を1:300に希釈(室温、50分)。3, 図B: DAPI(青)10分。図A: ターゲット。図B: DAPI。図C: A+Bのマージ。



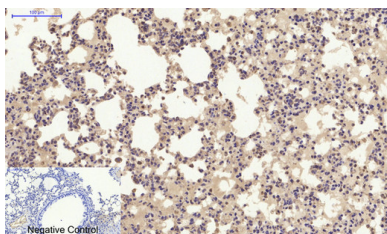
ラット脾臓組織の免疫蛍光染色。1, ERαポリクローナル抗体(赤)を1:200に希釈(4°C、一晩)。2, Cy3標識二次抗体を1:300に希釈(室温、50分)。3, 図B: DAPI(青)10分。図A: ターゲット。図B: DAPI。図C: A+Bのマージ。



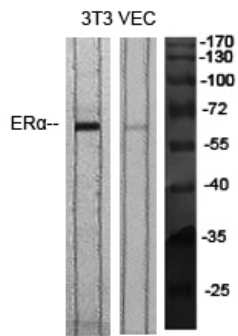
パラフィン包埋ヒト肺組織の免疫組織化学染色。1. ERαポリクローナル抗体を1:200に希釈(4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム(pH 6.0)を用いて抗体賦活化(>98°C、20分)を行った。3. 二次抗体を1:200に希釈(室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ラット肺組織の免疫組織化学染色。1. ERαポリクローナル抗体を1:200に希釈(4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム(pH 6.0)を用いて抗体賦活化(>98°C、20分)を行った。3. 二次抗体を1:200に希釈(室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋マウス肺組織の免疫組織化学染色。1. ERαポリクローナル抗体を1:200に希釈(4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム(pH 6.0)を用いて抗体賦活化(>98°C、20分)を行った。3. 二次抗体を1:200に希釈(室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



1: 2000 に希釈した ERα ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析